

葛飾区男女平等推進計画(第5次)の進捗評価表

葛飾区男女平等推進計画（第5次）各項目の進捗評価について

(1) 第5次計画の目標 1

『男女平等意識を持ち、あらゆる分野への男女共同参画を推進します』

課題	進捗評価
課題 1 男女平等の意識づくりと理解の促進	<p>令和元年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止に伴い、一部事業の中止があったが、概ね、計画どおりに研修や講座・講演会の実施、普及啓発に取り組んでいる。</p> <p>「男女平等に関する意識と実態調査（以下「意識と実態調査」）では、「男女平等社会の進捗（「十分平等」「かなり平等」の合計）」が、前回調査より増加しているものの、男女及び世代間の格差が生じている。また、家庭生活、職場などでの男女の不平等を感じることや地位の平等感にも同様に格差が生じている。家庭生活における男性参画については、「積極的」「分担」という回答が多いものの、女性が役割を担っていることが多い結果となっている。</p> <p>男女平等社会の実現に向けては、引き続き、学校教育をはじめとする「男女平等の意識づくり」に取り組んでいく必要がある。</p>
課題 2 男女の参画推進	<p>審議会等への女性の積極的な登用、区女性職員の管理監督者数の増、地域での男女平等に関する講座・男女平等の視点から考える防災講座など、政策・方針決定（行政）や地域活動などでの男女共同参画に取り組んでいる。</p> <p>審議会等への女性参画は、令和3年度までの達成目標を「32%以上」としているが、令和元年度末時点は29%であった（平成30年度は29.5%）。</p> <p>「意識と実態調査」では、区議会議員の女性議員数を現状よりも増加したほうがよいとの回答が増加している。また、防災については、「性別に応じたプライバシー（更衣、授乳、トイレなど）確保」など避難所運営に関する回答が多く、女性参画の充実・女性リーダーが必要との意見も寄せられるなど、女性目線での取り組みを更に進めていく必要がある。</p>

(2) 第5次計画の目標2

『すべての人が生き生きと暮らすための支援を充実します』

課題	進捗評価
<p>課題1</p> <p>仕事と生活の調和の推進</p>	<p>仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の普及啓発、企業への支援アドバイザー派遣、保育・福祉サービスによる子育てや介護等との両立支援に取り組んでいる。</p> <p>「意識と実態調査」では、ワーク・ライフ・バランスの認知度が前回調査より増加している。優先度については「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」それぞれでの両立を希望する回答が多いが、希望と現実の差は大きい。育児・介護休業については、男女ともに利用状況は前回調査より増加しているものの、依然として男女格差がある。</p> <p>引き続き、区民や企業に対するワーク・ライフ・バランスの普及・啓発、仕事と子育て・介護等との両立支援に取り組むとともに、意識の向上を図っていく必要がある。</p>
<p>課題2</p> <p>健康支援</p>	<p>子どもの発達段階に応じた性教育、男女ともに生涯を通じた健康支援（健診など）、また妊娠・出産、子育て期にわたる女性に対する相談事業などに取り組んでいる。</p> <p>引き続き、乳がん・子宮がん検診、妊婦健康診査などをはじめ、年齢や状況に応じた健康支援（健診など）に計画的に取り組んでいく必要がある。</p> <p>「意識と実態調査」では、性や妊娠・出産に関して、「成長と発育に応じた性教育」「性や妊娠／予期せぬ妊娠・出産・産後・不妊についての情報提供・相談体制の充実」という回答が多い。10代の健康支援に向けては、引き続き、普及啓発や相談窓口の周知に取り組んでいく必要がある。</p>
<p>課題3</p> <p>生活上の困難な状況を解消するための取組促進</p>	<p>ひとり親家庭への相談・自立支援、育児支援、障害者支援などに取り組んでいる。</p> <p>第5次計画の継承・国計画との整合性から、第6次計画においても課題として捉え、取り組んでいく必要がある。</p>

(3) 第5次計画の目標3

『人権が尊重される社会づくりに取り組みます』

課題	進捗評価
<p>課題1</p> <p>あらゆる暴力の根絶</p>	<p>女性はもちろん、子どもから高齢者まで、セクシュアル・ハラスメント（以下「セクハラ」）やドメスティック・バイオレンス（以下「DV」）をはじめとするあらゆる暴力・虐待の防止のため、講座や講演会での啓発、冊子等での情報発信、相談窓口、関係機関との連携などに取り組んでいる。</p> <p>「意識と実態調査」では、身体的・精神的・性的なDV経験の有無について、様々な回答があった。また、DVを受けた際の相談の有無については、「相談した」「相談しなかった（できなかった）」ともに回答割合が前回調査よりも増加している。DV防止及び被害者支援については、「暴力は犯罪であるとの意識啓発」「シェルター整備」「緊急時の相談体制の充実」との回答が多かった。</p> <p>令和元年度は児童虐待・DV相談ともに前年より増加、また、新型コロナウイルス感染拡大防止に伴う生活様式の変化などによる虐待やDVの増加が懸念されている中、未然防止と早期発見の取り組みは重要である。引き続き、普及啓発、相談窓口の周知や支援に取り組んでいく必要がある。</p>
<p>課題2</p> <p>多様性の尊重</p>	<p>多様性に関する講座や研修会の開催やLGBTに関する啓発パンフレットを作成し、普及啓発・情報発信に取り組んでいる。</p> <p>「意識と実態調査」では、性の多様性について、「自分の性別で悩んだことがある」が前回調査より増加しており、「男らしさ・女らしさを求められた」「異性に生まれたかった」という回答が多かった。また、LGBTの認知状況についても前回調査より増加している。</p> <p>多様性については、性別・年齢・国籍・人種・文化・生活習慣・価値観など様々な違いを問わず、一人一人が個性と能力を発揮できる、活躍できる社会を実現していくために、引き続き、理解促進を進めていく必要がある。</p>

(4) その他

講座・講演会については、平均受講（参加）率が70%未満であった。多くの方に参加してもらい、普及啓発・理解促進を進めるため、受講（参加）率を引き上げていく必要がある。